

○環境放射線モニタリング実施状況

モニタリング結果概要：

既存のモニタリングポストによる測定に加えて、5月1日から火災現場周辺における追加モニタリングを行った。これまでのところ火災現場周辺の全ての地点において空間線量率に大きな変化は見られていない。一方、大気浮遊じん中のセシウム濃度については、一部で数値の変動も見られたが、最大でも呼気吸入による被ばく線量を算出しても年間1mSvの約100分の1程度であり、健康影響を及ぼすレベルではない。

<実施状況>

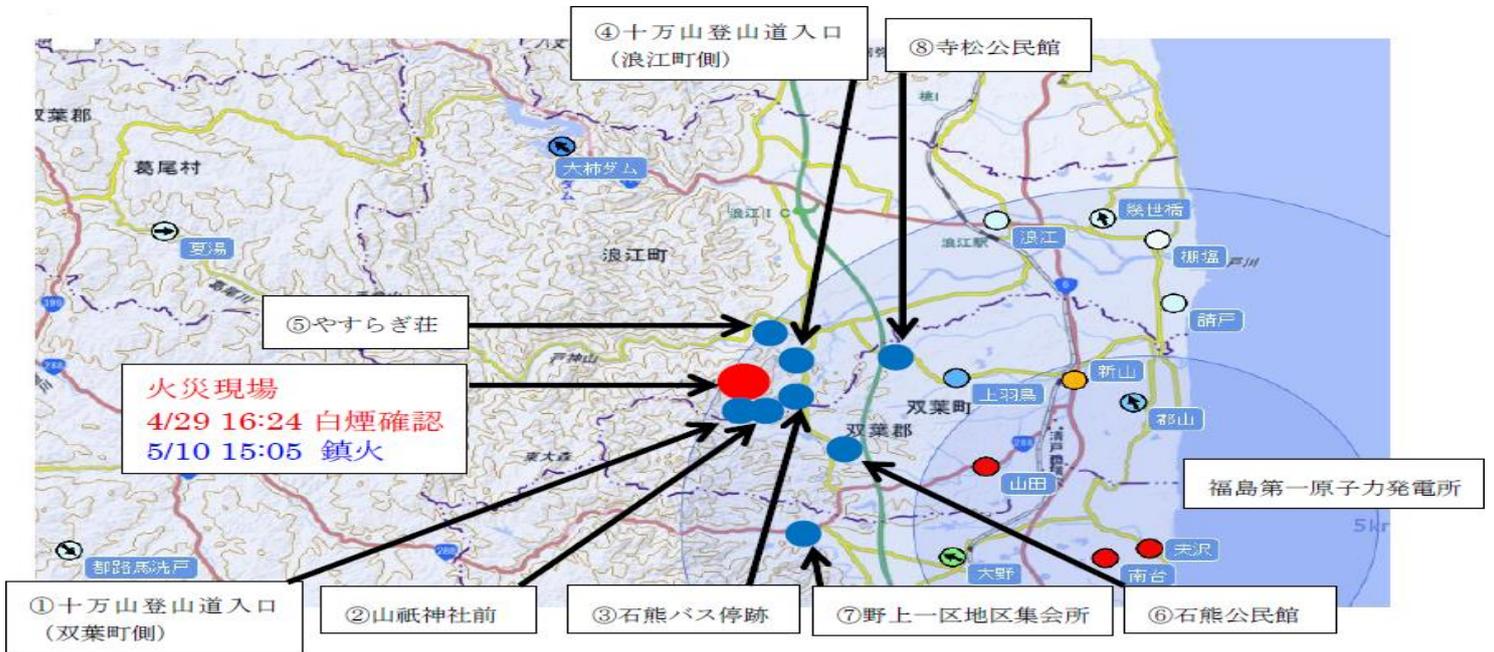
空間線量率の測定：5.1(月)より①～④の地点で実施（サーベイメータによる測定）

②～④については、5.5(金)より可搬型MPに切り替え、追加モニタリングを実施。

※⑤～⑧は、既設モニタリングポスト

大気浮遊じん(ダスト)の測定：5.1(月)より⑥⑦の地点、5.2(火)より⑤の地点の計3地点で追加モニタリングを実施。

<地点図>



<線量率の推移>

